

ご担当者の中で、ご閲覧ください。

皆様が気になる「お役立ち情報」をお届けします！

回 覧						
--------	--	--	--	--	--	--

マルトヨ newsletter

8 2017
月号

VOL.

076

編集担当者からひとこと

こんにちは、(株)マルトヨの大池です。
岡崎に引っ越してきて早くも3ヶ月が経過しました。
知多から通っていた当時は往復3時間もの通勤時間がかかっていましたが、
それがなくなっても時間的余裕がそれほど出来ていないのは何故なのでしょう。(笑)
仕事帰りに名古屋のバーで飲めなくなったのがちょっと寂しい今日この頃です。



編集担当：大池

NEWS

01 AI 導入最前線

企業での AI 活用が本格的に始まろうとしています。
総合コンサルティング企業であるアクセンチュア・リサーチ社は、「AI の活用によって 2035 年までに各業界で平均 38% の増収が見込める」とレポートしています。
AI の普及によって人間の働く職場がなくなるのではないかといった懸念も囁かれており、その是非については難しい問題も孕みますが、収益が上がるとなれば企業としては無視することはできないでしょう。
マイクロソフトとアクセンチュアの戦略的合併会社であるアバナードは、経営層の 9 割が「5 年以内に AI を導入しなければこの先業界リーダーにはなれない」と回答したと言います。

実際に企業での実証実験も進んでいます。

サッポログループでは、社内の問い合わせ対応業務を対話型 AI に代行させる実証実験を行ったところ、実に 45% もの問い合わせについて、人の手をかけずに AI で対応可能だったと言います。

また、大手食品メーカーのキューピーは、一日 100 万個以上にものぼるポテトの不良・異物混入などの検査業務について、AI に学習させて実証実験を行ったところ、生産性が約 2 倍に高まったのだそうです。

一方、AI の活用が広がることでいくつかの懸念があることも確かです。
先の雇用の喪失の問題については、AI メンテナンスの職が生まれることで相殺されるという意見がある一方で、経営者が失職を恐れる従業員からの猛反発に遭うということもやはり少なくないようです。

また、AI が如何にして解を導き出したのかがわからなくなる、いわゆる AI のブラックボックス化も将来的には大きな問題となってくるでしょう。
SF 界の巨匠アーサー・C・クラークは「十分に発達した科学技術は魔法と見分けが付かない」と述べていますが、まさにそのような未来が現実になろうとしているのかもしれない。

企業の形が大きく変わっていきこうとしている今、いかに情報を早く精査するか、そして柔軟に対応できるかが求められているのかもしれない。

お客様の満足と喜びを
私たちのよるこびとします！



発行：株式会社 マルトヨ

〒444-0008

愛知県岡崎市洞町字宮ノ腰2-1

URL: <http://www.marutoyo.info>

マルトヨ

検索

TEL: 0564-24-9138 FAX: 0564-25-1391

